

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会 優秀賞
図書館と私

船橋市立海神中学校

第一学年 服部 真樹

太陽がじりじりと照り付ける中、セミが鳴いている。

今日も私は自転車でお気に入りの涼しい図書館に来ている。夏休みに入って何度目だろう。今年の夏は自由研究で明治の文豪について調べるためいつも以上に気合が入っている。

図書館にはたくさんの本がある。色とりどりの絵本や最新の雑誌、数多くの単行本や文庫本、実用書や各地の新聞に分厚い辞典、CDなどもあつて所々に椅子やテーブル、ソファなどが置かれ、検索機や貸出機なども設置されている。

そして、様々な人が図書館を利用している。今日ここに来ているのは、赤ちゃんを抱っこして絵本を探しているお母さん、新聞を読んでいるおじいさん、重そうなりュックを背負いながら学習コーナーに向かう高校生や大学

生など。私はよくYAコーナーに行く。そこには毎月変わる本の特集コーナーや新刊のお知らせなどが綺麗に展示されている。そこで私はふと、この新刊は誰が買っているのだろうと疑問に思った。早速私は検索機で「公立図書館 運営」と打ち込み関係する本で調べることにしてみた。

するとこの新刊だけでなく、ここにある全ての本や新聞、CDなどが税金で賄われていることが分かった。更に私を驚かせたのはこの快適な空間も全てが税金によって成り立っていることだ。

私の住んでいる市では、図書館などの教育文化施設の整備には、この地域に住む人たちが地域社会の費用を分担するための税金である個人市民税や法人市民税などの他、市内に大きな事業所を構える法人などが納める事業所税という税金も使われているということが

分かった。事業所税とは都市環境の整備や改善に関する事業に必要な財源の確保を図るための目的税で、東京都特別区、政令指定都市人口三十万人以上の都市などで課税されるものということも分かった。

税金は図書館や学校などの公共施設の建設だけではなく、私たちの暮らしを安全に、快適にそして豊かにしてくれる公共サービスの維持にも使われていることがわかった。

これを知ったうえで改めてこの図書館を見渡してみる。カウンターには貸出作業をする方、大量の本を載せたワゴンを運ぶ方、図書館には図書館を運営するスタッフの方々もいて、私たちに公共サービスを提供して下さっているのだ。

ハード面でもソフト面でも税金が使われている私の好きな図書館。この涼しい快適な空間には私たちを含め納税する人々の思いが込められていると感じ、心の中がじんわりと暖かくなった。そしてこれからも一冊一冊を大切に読もうと思ひ、感謝の気持ちをもって施設をより丁寧に使おうと心に決めた。